

メッセージアウトライン

2015年3月29日(日)

聖書箇所：マルコ15：22～38

タイトル：「絶望と希望の会うところ——十字架」

テーマ：今週は受難週に入る。私たちの主イエス・キリストが十字架の上で叫ばれた「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」・・・「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」・・・という絶望ともとれる叫びの中に、輝く希望を見出してゆく。（「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」 マタイ27：46）

今年のみことば、「いつまでも残るものは信仰と希望と愛です」について年初より語らせていただいているが、受難週にあたってキリスト者の「希望」について考えてみる。

今回は、

1. イエスが十字架につけられていく経緯
2. 十字架のイエスを取り巻く状況
3. イエスの叫びとその意味
4. 絶望から希望へ
というポイントで語らせていただく。

1. イエスが十字架につけられていく経緯

- * イスカリオテ・ユダの裏切り（マルコ14：10）
- * 過越の食事（14：12～25）
- * ゲッセマネの祈り（14：32～42）
- * イエスの捕縛（14：43～53）
- * イエスを見捨てて逃げてしまった弟子たち（14：50）
- * 祭司長たちとサンヘドリン（ユダヤ議会）による裁判（14：55～64）
- * ローマ総督ピラトのもとへ（15：1～14）
- * 十字架刑決定（15：15）
- * ローマ兵による嘲弄（15：16～20）
- * ゴルゴタの丘へ（15：21～22）

2. 十字架上のイエスを取り巻く状況

- * 兵士たちはくじびきでイエスの着物を分け合った。
- * 二人の強盗がイエスの右と左に。彼らもイエスを罵った。
- * 道行く人々のイエスに対する罵り。
- * 祭司長たち、律法学者たちのイエスに対するあざけり。

1と2は、イエスがすべての人から見捨てられてしまった状況を示している。

3. イエスの叫び

*「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」——父なる神からも見捨てられてしまった叫び

*イエスの叫びは、本当に絶望の叫びか。

詩篇22篇のダビデの賛歌を、イエスは念頭に置いておられる。この詩篇の最後は勝利と希望の歌に変わる。

「わが神、わが神。どうして、私をお見捨てになったのですか。遠く離れて私をお救いにならないのですか。私のうめきのことばにも。わが神。昼、私は叫びます。

しかし、あなたは答えになりません。」——「けれども、あなたは聖であられ、イスラエルの賛美を住まいとしておられます」——詩篇22：25～28へ。

*神の怒りをその身に引き受けて下さったイエス。その意味するところ。

4. 絶望から希望へ

*絶望の中に輝く希望であり続けたイエス・キリスト。イエスがお生まれになった記事を思い出してみよう。

・「ゼブルンの地とナフタリの地、湖に向かう道、ヨルダンの向こう岸、異邦人のガリラヤ。暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、死の地と死の陰にすわっていた人々に、光が上った。」(マタイ4：15、16)

・「日の出がいと高き所からわれらを訪れ、暗黒と死の陰にすわる者たちを照らし、われらの足を平和の道に導く。」(ルカ1：78、79)

・「この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。」(ヨハネ1：4、5)

イエスの誕生が暗やみの中に光をもたらし、イエスの死は絶望の中に希望の光をともした。

*人々にも神にも見捨てられてしまったという絶望と孤独を味わっている方たちへ